

敷鉄板吊り作業で多発している労働災害の現状

◆はじめに◆

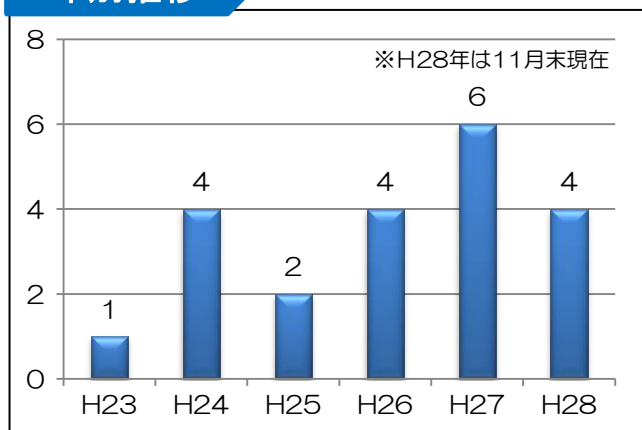
多くの建設現場においては、鋼製の敷鉄板を敷設して地盤養生を行っておりますが、近年の工事量の増加に伴ってその使用数が増加しているところでは、その中で、県内では敷鉄板の敷設時等の吊り作業に伴う労働災害が多発しています。

敷鉄板の敷設等は、工事の準備や後片付けとして行われる機会が多いため安易に行われがちですが、重量物である敷鉄板の取扱いには高い危険性が伴うことから、作業方法や作業手順を十分に吟味した作業計画を定めて作業を行うことが必要です。

事業者の皆様には、本リーフレットを参考に、安全な作業を徹底していただくようお願いします。

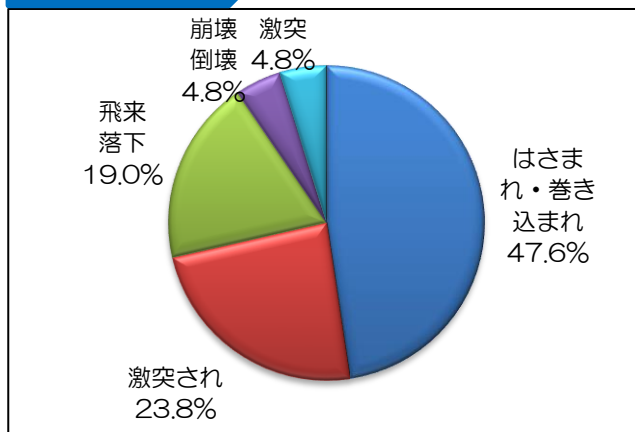
◆平成23年以降宮城県内で発生した敷鉄板吊り作業における災害の状況◆

年別推移



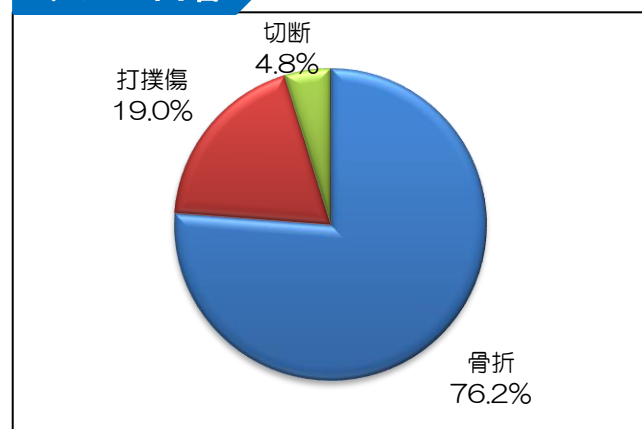
◆敷鉄板吊り作業時の災害は震災の年以降毎年発生しており、宮城県全体で平成28年11月までに累計21件発生し、平成24年以降は毎年複数件発生している。

事故の型



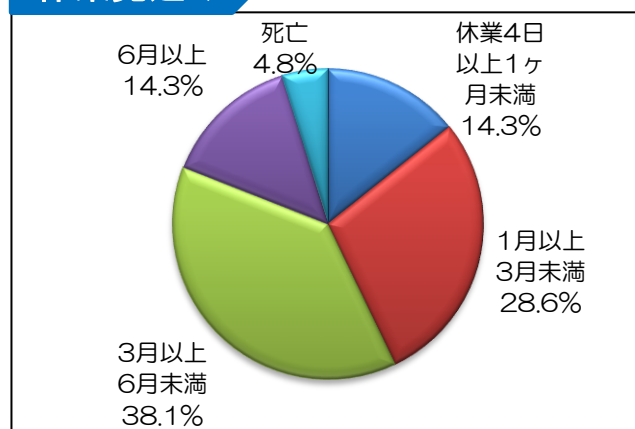
◆敷鉄板移動時等に、地面や荷台にはさまれる災害が約半数を占めており、荷振れによる「激突され」災害、フックから敷鉄板が外れ落下する災害も発生している。

ケガの内容



◆敷鉄板は重量物であることから、一度災害が起きると、骨折等の重症災害となる傾向にある。

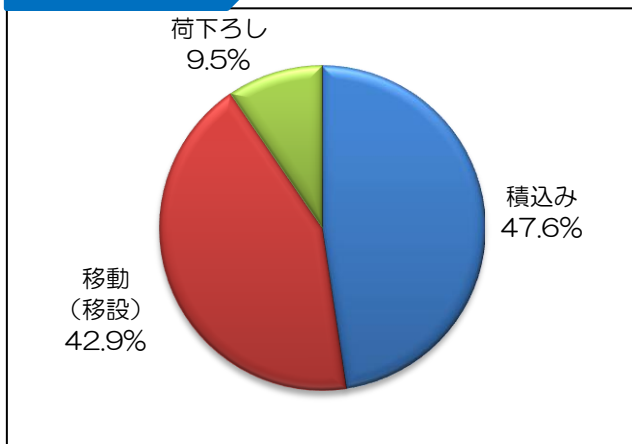
休業見込み



◆約8割が休業1ヶ月上の災害で、5割以上が3ヶ月以上休業を要する重篤なものとなっており、死亡災害も発生している。

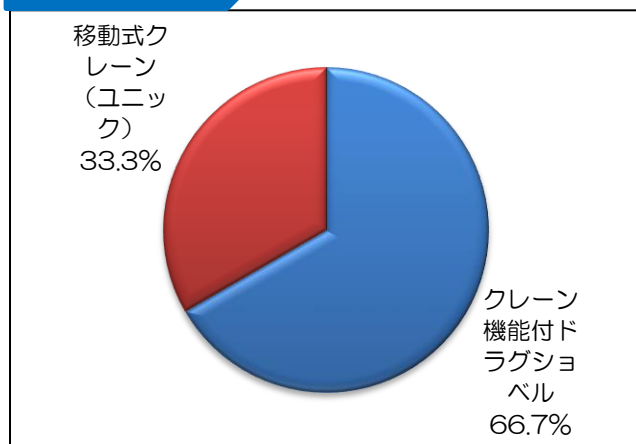


作業内容



◆敷鉄板のトラック等への積込み時、移設等のための移動時の災害が多く発生している。

使用機械



◆災害発生時の使用重機を見ると、全体の3分の2がクレーン機能付ドラグショベルで行われている。

◆作業内容別に見た災害発生事例◆

積込み作業時の事例

ダンプに敷鉄板の積込み作業中、玉外しのため荷台にいた被災者側に敷鉄板が倒れかかり、敷鉄板を押さえようとした被災者が敷鉄板に激突し敷鉄板とともに荷台上に倒れた。(死亡)

ダンプに敷鉄板を積み込む作業をしていたとき、吊り金具のフックが外れ、荷台上にいた作業員(玉外し者)がダンプ荷台と敷鉄板にはさまれた。(休業12ヶ月)

敷鉄板に吊り穴が無かったため、クランプを使用して1点吊りし、ユニック車に積み込もうとしていたところ、敷鉄板が荷台にぶつかってクランプが外れ、敷鉄板が落下し、振れ止めのために敷鉄板を押さえていた作業員が下敷きとなった。(休業1ヶ月)

移動(移設)作業時の事例

敷鉄板の移設作業中、クレーン機能付ドラグショベルで敷鉄板を地切りした際、敷鉄板の裏面に土砂が付着していたために偏荷重となって1点吊りの敷鉄板が回転し、作業員の足に激突した。(休業20日)

クレーン機能付ドラグショベルで敷鉄板を吊って移動中、吊りワイヤーのフック掛けが不十分であったため1点吊りの敷鉄板がフックから外れ、近くにいた作業員に敷鉄板が落下した。(休業3ヶ月)

荷下ろし作業時の事例

敷鉄板の荷下ろし作業中、合図者とユニック車オペレーターが事前に合図方法の確認をせずに吊り荷のそばで合図し、オペレーターが合図を誤認して荷を下ろしたため、敷鉄板と地面の間に足をはさまれた。(休業6ヶ月)

◆おわりに◆

現在、敷鉄板吊り作業の多くが敷鉄板にある穴を利用した1点吊りで行われており、震災後に県内で発生した21件の労働災害も全て1点吊り作業です。

荷の1点吊りは、必ずしも法令違反ではありませんが、敷鉄板はその形状や6mの長尺ものが多くなっていることもあって、土砂等の付着による偏荷重が生じやすく、また、クレーン機能付ドラグショベルで吊ることや風の影響を受けやすいことなどから作業員が吊り荷に近づいて手で押さえる等の危険な作業が行われがちです。

以上のことから、敷鉄板吊り作業は現場の状況に応じた安全な吊り方ができる敷鉄板と吊り具を使用し、現場の実態に即した安全な吊り方を吟味した作業計画と作業手順を定め、関係者に周知した上で作業を行うことを徹底していただくようお願いします。 ご安全に！